

新秩父宮ラグビー場（仮称）整備・運営等事業  
I 期整備工事

# 世界に誇る日本ラグビーを象徴するスタジアム

新秩父宮ラグビー場は、現在の秩父宮ラグビー場と神宮外苑の歴史を継承し、風格ある「力強さ」と人々に愛される「親しみやすさ」を兼ね備えたスタジアムです。また、フィールドと観客席の一体感なども現在の秩父宮ラグビー場から引き継ぎ、ラグビーの聖地として未来に亘ってレガシーとなるスタジアムとなります。



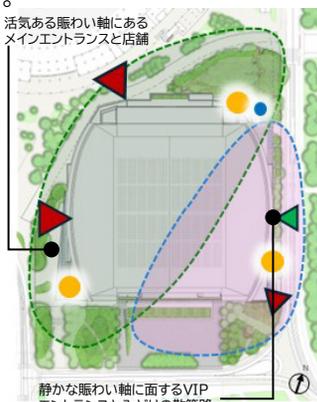
新秩父宮ラグビー場Ⅱ期完成イメージ

## 歴史性と場所性の尊重

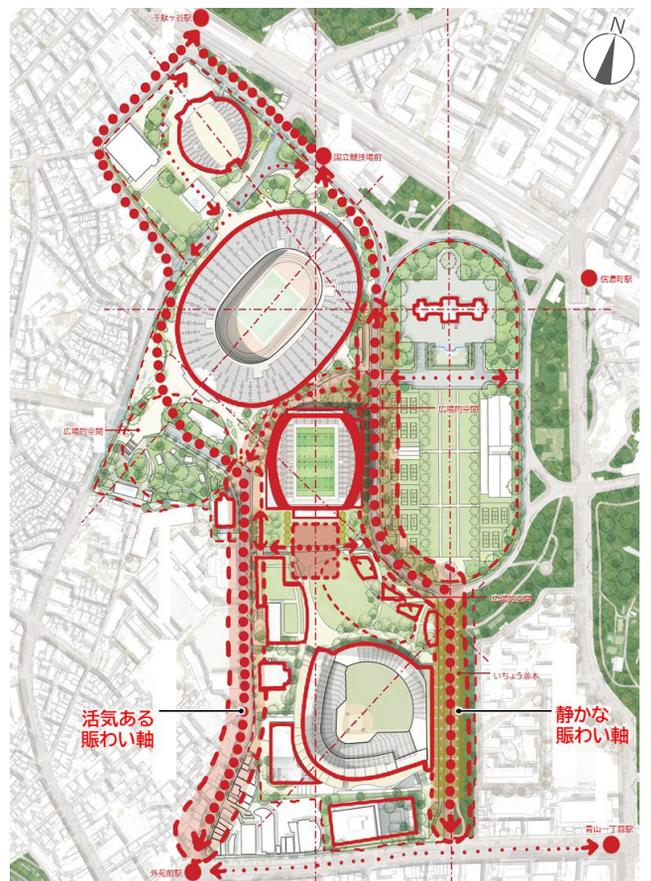
### ◆外苑創建時からの都市計画を踏まえた建物配置計画

建物配置計画では、神宮外苑地区が大規模スポーツ施設、公園、既存施設等の再編・整備を図る地区と明治神宮聖徳記念絵画館や神宮外苑いちょう並木を中心とした緑豊かな風格ある都市景観を保全し、緑と調和した空間整備を図る地区などから形成されていることから、競技施設エリアと接する円周道路側を「静かな賑わい軸」、西側のスタジアム通りを「活気ある賑わい軸」と読み解き、まちと調和したネットワークの形成を図ります。

活気ある賑わい軸には、メインエントランスや店舗を計画、静かな賑わい軸にはVIPエントランスやみどりの散策路を計画しました。



新秩父宮ラグビー場ゾーニングイメージ



神宮外苑に存在する都市軸の分析(建築家:内藤廣スケッチ)

## 隣接施設と調和する外観デザイン

スタジアムの外観は、屋根の高さを抑え、圧迫感を感じないよう、軒高を国立競技場や明治神宮聖徳記念絵画館と同程度とし、周辺施設との調和を図りました。垂直方向に細かく分節した傾斜屋根とすることで、立体感を演出します。現在の秩父宮ラグビー場建設時の観客席デザインを継承する弓なりの大屋根が感動を包み込みます。



スタジアム通りから西エントランスを見る

### 大規模スポーツ施設の玄関口としてふさわしい、象徴的な景観を形成

#### ◆ 来訪者を迎えるガラスと木の大庇

- エントランスゲートにはガラスと木を使用した大庇を配置し、隣接する国立競技場の軒庇との調和を図るとともに、人々をやさしく迎え入れます。
- 街角広場に面した西エントランス周りは、内外を一体的につなげるガラスを多く使用し、開放感ある設えとします。
- 歩行者目線レベルの圧迫感をなくすため、低層部の壁面を凹凸させ、細かく分節します。
- 国立競技場での同時イベント開催時には街全体の賑わいに貢献します。



西エントランス前 街角広場のガラスと木の大庇



南東エントランス前 壁面を凹凸させ圧迫感を軽減



国立競技場から新秩父宮ラグビー場を見る

# 神宮外苑の緑との調和

敷地周辺の樹木や地形を読み解き、緑地のバリエーションを増やして、人を含む様々な生き物にとってより良い環境を将来に渡って形成します。保存樹木に加え、II期整備時には、敷地の南西と南東側に新植樹を配置し、スタジアム通りや、いちよう並木から続く魅力的なアクセス散策路としての歩行空間を計画します。



保存樹木に囲われた、スタジアム通り側 西エントランスイメージ

## 保存樹木などの緑と調和する外構計画

### ◆緑豊かなスタジアム 地区全体の、みどりのネットワークとの連携

- 敷地内の保存樹木を最大限保存したうえで、移植樹木に加え、外苑創建時に植樹された樹種から新植樹を選定し、良好な緑地の形成と周辺との調和を図り、現状より本数が増えるよう樹木を計画します。
- 滞留空間、歩行空間、ボリュームのある中低木植栽、保全緑地を散策できるデッキの敷設等様々な空間を設けます。
- 神宮外苑まちづくり地区を南北に貫く「みどりの散策路」と連携し、日常的に散策できる場として地区の回遊性を向上する計画します。



A矢印 敷地北東保全緑地と国立競技場の緑道と融合した新たな緑道イメージ

### ◆スポーツの歴史と価値を継承・発信する博物館機能

- 静かな保全緑地に面する北東側に、我が国で発展してきたスポーツの歴史等を継承する博物館機能を設け、ラグビーをはじめとするスポーツの多様な価値を伝えるネットワークの拠点として、広く国民にスポーツの歴史や価値を伝え、継承していくことで、その価値を高める役割を担います。



B矢印 博物館エントランス周辺イメージ

# スポーツの多様な価値を発信するスタジアム



最高峰のラグビーが行われる施設としてふさわしい、競技者が最高の力を発揮できる競技環境

## 全天候型により選手が最高の力を発揮できる快適な競技環境を実現

### ◆競技パフォーマンスを最大化する環境

- フィールドは全天候型で、ワールドラグビーが定める性能を満たす人工芝を採用するとともに、館内冷房時にはフィールドに微風を送ることで、選手の体感温度を下げ、また館内暖房時にはフィールドに外気冷房を行うなど、選手が最高の競技パフォーマンスを発揮できる環境を創出します。
- フィールドとスタンドが近接する現在の秩父宮ラグビー場を踏襲するとともに、左右対称のスタンド観客席と、コーナー部から試合が見られる観客席「ラグビータワー」、フィールドと同レベルの観客席「フィールドバー」等による観客に包まれた環境が、選手の高揚感を創出します。

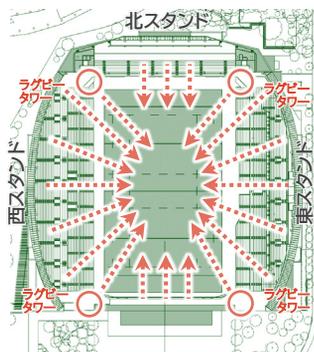


フィールドに近くに感じ、五感の全てを刺激する熱狂と感動の観戦体験

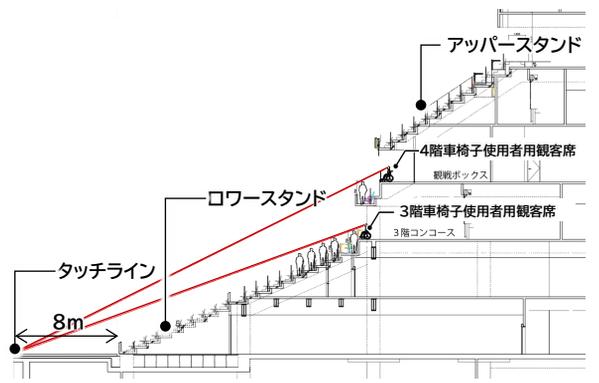
## 快適に観戦できるサイトラインの確保

### ◆フィールドを近く感じる観客席

- タッチラインに並行な東西スタンドは、勾配や列・段数に差をつけず、どちら側からも臨場感を味わえます。
- 北スタンドは一定勾配にすることで、ファンが一枚の壁のように見える「ファンウォール」空間を創出し、より一体感のある観戦環境となります。
- フィールド全体を見下ろすアッパースタンドは、見やすく、臨場感のある、試合に没入できる傾斜角としました。
- ライト層からコアなファンまで、あらゆる人が楽しめるように、形状や設え等が多彩な観客席を設けました。
- 車椅子使用者用観客席は分散配置し、視認性も確保しました。

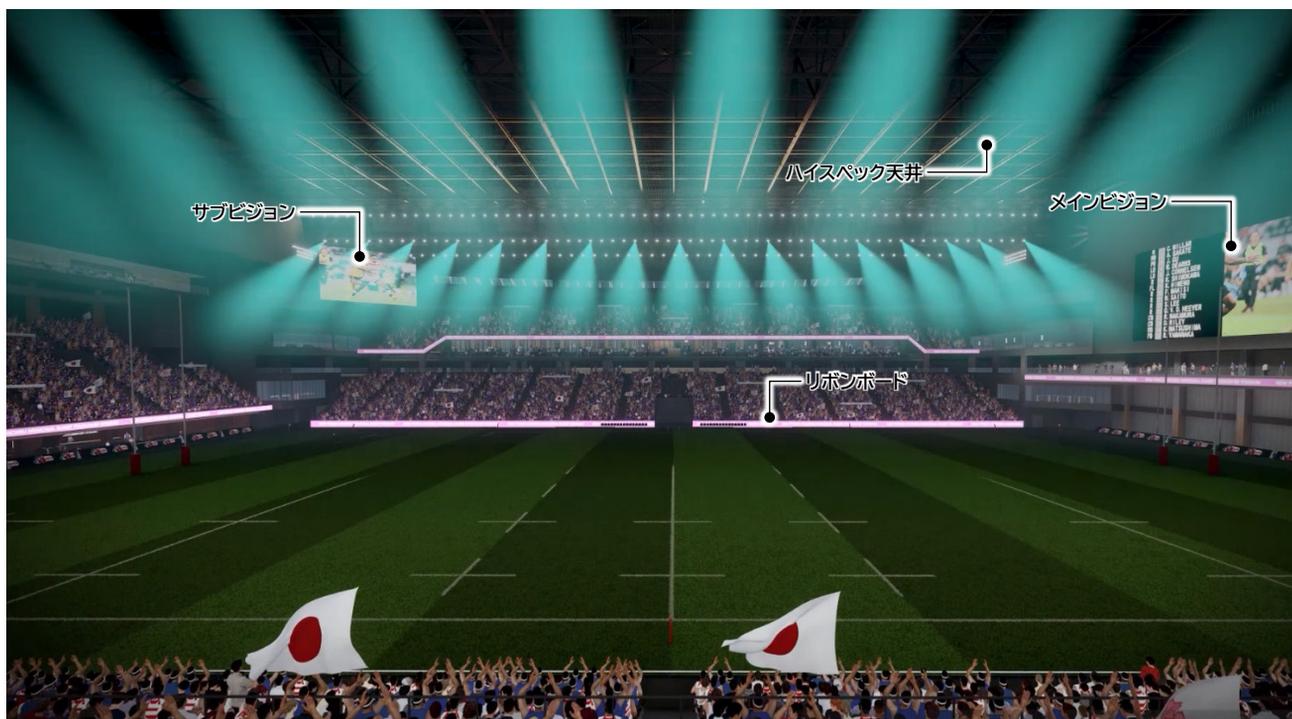


見やすさを追求したスタンド形状の考え方



東メインスタンド断面図

# 様々なシーンに対応できる心地よいスタジアム



東西対称のスタンドと北側ファンウォールが生み出す圧倒的な臨場感と一体感

## 観戦体験に付加価値を提供することで感動やエンゲージメントを高める仕組み

### ◆観戦中の熱狂と感動を生み出す様々な仕掛け

- 50m×12mのメインビジョン、映像・音響・照明を連動させ、試合への没入感と一体感を感じる最高のラグビー観戦環境を実現します。
- メインビジョンに加えて、16m×9mのサブビジョンを2か所設置するとともに、フィールドを取り囲むリボンボードが、臨場感ある観戦環境を創出し、スタジアム全体がエンターテインメント性に包まれることで、どの席からでもプレーを見逃さない空間を実現します。



選手入場ゲート/ミックスゾーンよりフィールドを見る

### 期待感を高める様々な仕掛け

- 多様な人々を迎え入れる広い西エントランス空間では、チーム紹介など様々な催しが可能で、心躍る期待感を高めます。



西エントランス内 イベント開催イメージ

### ラグビー以外の多様な利用

- フィールドエリア上部を吊り荷重160tのハイスバック天井としたことで、様々なイベントに対応可能です。



フィールドを観客席としたコンサート開催イメージ

# 持続可能性に配慮した未来を紡ぐスタジアム

障がい、年齢、性別、国籍にかかわらず、すべての人が安心して快適に利用できるよう、障がい者等の関係団体（11団体）とのワークショップで得た意見を踏まえて、細やかな配慮を施したユニバーサルデザインを導入しました。

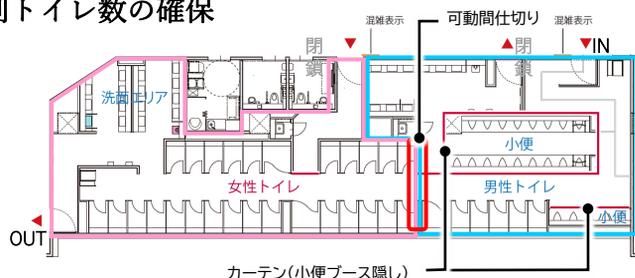


ワークショップの風景

## 全ての人が快適に利用できるトイレ計画

### ◆間仕切り壁設置による利用状況に応じた男女別トイレ数の確保

- 便房内に可動間仕切りを設け、イベントに応じて男女トイレブースが調整可能な仕様としました。
- 一部出入口を閉鎖し、また、小便ブースをカーテンで隠し、女性利用に転用しやすいよう配慮しました。
- 小児利用を想定し、小便器を受け部の低い器具とし、洗面カウンターの一部をローカウンター型としました。
- 高齢者利用を想定し、手すり付小便器、洗面カウンター、大便ブースを設ける計画としました。

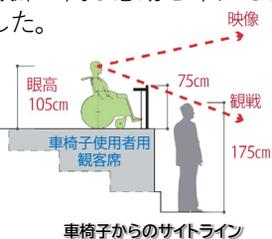


男0女10の場合の運用例(男子便所の女子利用可)

## 車椅子席の快適な観戦環境

### ◆サイトライン確保とグループ利用の対応

- 眼高の低い車椅子使用者のサイトラインを確保するために、眼高105cmを標準としました。
- 前列の人の身長を175cmと想定し、前列席の人が立ち上がった状態でも、車椅子席の視界を妨げない計画とし、一般席と同じ感動を味わえる観戦環境を計画しました。
- 高さ調整可能なカウンター席とし、同伴者や複数の車椅子利用者などに対応し、コンセントも完備しました。

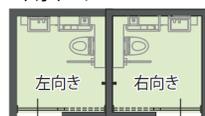


## 利用者を想定したバリアフリートイレを各階に設置

### ◆代表的な3つの例

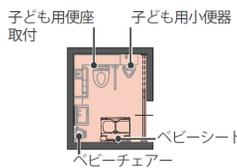
※その他バリアフリートイレを計画しました

- 利用時の向きに配慮した車椅子用トイレ



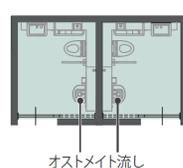
2室以上併設し、身体状況に配慮して対称レイアウトのトイレを計画しました。

- 乳幼児連れ対応トイレ



乳幼児連れの方が同伴して見守りながら利用いただけるトイレを計画しました。

- オストメイト対応トイレ



オストメイト流しと車いす使用者用トイレを併設した計画としました。

## 全ての人が安心して観戦できる諸室/機能

### ◆子ども連れで観戦できるキッズルーム

- 連れ添いの方が観戦しながら利用でき、フィールドが見え、モニターも併設した計画としました。

### ◆気持ちを静める部屋を有する休憩室

- 気持ちを静めるための部屋(カームダウン・クールダウン)を休憩室内、または救護室内に設け、当事者のみならず、付き添いの方も利用できる計画としました。

### ◆周囲の音などに敏感な方に配慮した部屋

- 感覚過敏や鈍麻の方など、周囲の音や環境を気にせずに観戦できる「センサリールーム(仮称)」を設け、家族やグループでも利用できるように計画しました。

### ◆集団補聴設備の分散配置

- 聴覚障がい者も様々な席から観戦できるように、スタンドの複数のエリアに集団補聴設備(ヒアリンググループ)を計画しました。



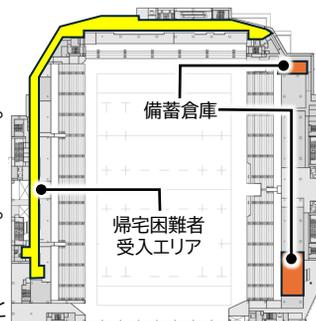
## 帰宅困難者対応 / 災害備蓄倉庫の整備

### ◆緊急時の帰宅困難者受入れ

- 東京都帰宅困難者対策条例、大規模な集客施設や駅等における利用者保護ガイドライン等を踏まえて、帰宅困難者840人の受入スペースを計画しました。
- 帰宅困難者受入時は、常設の非常用発電機及び太陽光発電設備により、エリア内の照明・コンセント・空調・換気・給排水を稼働する計画としました。

### ◆災害備蓄倉庫の整備

- 浸水を考慮し2階以上の階に災害備蓄倉庫を計画しました。
- 備蓄倉庫にはイベント時の災害も想定し観客のための水・食料を確保しました。
- 東京都帰宅困難者対策条例、新宿区地域防災計画(令和3年度修正)を踏まえた計画としました。



帰宅困難者受入エリアイメージ(2階平面図)

